

改良メダカの放流禁止について

日本メダカ協会

1 改良メダカの放流禁止が絶対な理由について

今現在、メディア等で取り上げられている特定外来種の放流の問題に関して、川や池に放流するのは生態系を崩す恐れのある危険行為です。しかし、メダカのような種であれば放流しても問題ないと勘違いしている、又は、国産のメダカだから大丈夫、などといった思いから、川などに放流する行為を防ぐ事について解説します。

2 改良メダカを放流すると何が起こるか？

鑑賞用は改良品種であり、野生の血統とは異なる特徴をもっています。観賞用のメダカを川や池に放流すると改良品種とその場に生息する純血統で交配によって生まれ生体は、種類の異なる2匹の両親から外見的特徴を半分ずつ受け継ぐ交雑種メダカになってしまうのです。

観賞用メダカが放流された場所では、放流されメダカが少数だとしても、交雑が進むにつれて交雑メダカが増えていき、最終的には純血種が川や池から姿を消してしまう事が問題視されています。

3 純血種が減ると何が問題なのか？

純血種のメダカの遺伝子には、自然環境の変化に適応してきた地域ごとの長い歴史に刻まれており、純血種のメダカの遺伝子情報そのものが自然環境の変化を分析するための貴重な資料であります。

外来種の放流の危険性はニュースなどで大きく報じられていますが、観賞用メダカの放流もそれと同様で、本来生息する地域の枠を超えて生体を移動させることは生態系に多大な影響を及ぼします。生体の多様性を保つことは、人間の生存環境を守ることに直接する大きな問題なのです。

4 放流前の環境を取り戻す事は難しい

野生メダカの絶滅への懸念から良かれと思って種魚を放流したりする「無知の放流」があとを絶たず、多くの川に他地域からきたメダカが生息しているとも考えられています。観賞用メダカとの交雑が一度でも起きてしまうと、現地の純血種の保全是難しくなるため、**観賞用メダカを川に放流することは絶対に避けなければなりません。**

個人の趣味でメダカを飼うのであれば、最後まで完結させることを目指してほしい。

5 繁殖させたメダカは責任をもって飼う

コツさえつかめば誰でも繁殖することができます。しかし、生体が増えればそれだけにコストがかかります。メダカの繁殖に挑戦する際は全ての生体を、責任をもって飼育する覚悟を持ちましょう。

6 放流禁止を促す対策



- ・ 近くのメダカ専門店に依頼して引き取りをお願いする。
(日本メダカ協会協賛店では引き取りを行っています)
- ・ オンラインショップ用梱包袋を利用し放流禁止を促す。
- ・ 個人的に渡す場合は、必ず放流禁止の重要性を説明して譲渡する。